

1 題材名 「ようこそ！4－4WPSへ」

2 題材について

粘土は子供たちにとって身近な造形の材料である。これまで子供たちは油粘土や土粘土を使い、想像力を働かせながら、思いのままに形を変えて作りたいものを表す活動や、できた形を友達と鑑賞しあう活動をしてきた。しかし、液体粘土は日常生活ではあまりなじみのない材料であり、子供たちにとって初めて出会う題材となる。また、液体粘土はこれまでの粘土と違い、布を固めたりほかの材料と組み合わせたりするなどの新しい使い方ができる。そのような、未知の材料との出会いや新しい表現方法に挑戦する楽しさを味あわせたりしたいと考え、本題材を設定した。

本題材は、学習指導要領第3学年及び4学年の目標（1）「進んで表現したり鑑賞したりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。」（2）「材料などから豊かな発想をし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫し、造形的な能力を伸ばすようにする。」にあたる。これを受けて、内容Aの（2）イ「表したいことや用途などを考えながら、形や色、材料などを生かし、計画を立てるなどして表すこと。」ウ「表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表し方を考えて表すこと。」と構成されていて、「布を液体粘土で固めることを楽しむ」活動から、「固めてできた形とほかの材料を組み合わせでできる表現を楽しむ」活動へ移っていく中で、作りたいもののイメージをもち、自分の想像した世界を立体に表す活動である。

「布を液体粘土で固めることを楽しむ」活動では、液体粘土で布を固めるという未知の活動との出会いを大切に、液体粘土の楽しさを伝えるようにする。「早くやってみたい」という子供たちの気持ちを高めることで子供たちは題材に新鮮さを感じ、楽しみながら活動することができるだろう。「固めてできた形とほかの材料を組み合わせでできる表現を楽しむ」活動では、子供たちが発想を広げながら材料との組み合わせを試すことができるように、子供が持ってくるもののほかにもいろいろな身近材を用意しておく。また、接着にはボンドを使うので、使い方を掲示物にしていつでも見ることができるようにする。接着の方法を知ることによって子供たちは安心して活動することができるだろう。

本学級の子供は男子17名、女子19名の活発なクラスである。図工学習にも意欲的で、楽しみながら製作活動に取り組んでいる。一方で、製作することは楽しんでいるが出来上がったものに自信がなく、「これでいいですか」と何度も聞いて来ることも多い。そこで指導にあたっては、子供たちが楽しく発想を広げながら作品作りに取り組めるように、「旅行会社の社員になっておすすめの場所を紹介する」という場面を設定して学習を展開する。導入の時間では「おすすめの場所」と聞いて考えられるイメージをイメージマップやコンセプトアートにして子供たちの興味・関心を高め、おすすめの場所へのイメージをもたせる時間を十分に取るようにしたい。製作の途中では「この場所にはこんなものがある」「この場所ではこんなことができる」というイメージをもちながら材料を選んだり組み合わせたりするように話を進める。また、作品の中にその世界にいる自分を紙粘土で作って入れるようにする。そうすることで、子供たちはより自分の作った世界に愛着をもち、もっと飾り付けてみたいという欲求が生まれると考える。子供たちが活動を楽しみながら、自信をもって思い思いの世界を表現できるようにしたい。

3 題材の目標

- 自分の想像した世界を液体粘土で表す活動を楽しむ。 (造形への関心・意欲・態度)
- 自分の表したい世界を思い付き、液体粘土や他の材料を生かして、形や色、組み合わせなどを考えることができる。 (発想や構想の能力)
- 材料を切ってつないだり組み合わせたり、いろいろ試しながら表し方を工夫することができる。 (創造的な技能)
- 自分の気持ちを話したり、友人の話を聞いたりしながら、作品のよさや面白さなど表現の工夫したところを感じ取ることができる。 (鑑賞の能力)

4 評価規準

関心・意欲・態度	発想	技能	鑑賞
自分の考えたおすすめの世界を液体粘土で表す活動を楽しもうとしている。	自分のおすすめの世界を思い付き、イメージに合った材料を集めて、形や色、組み合わせなどを考えている。	色を塗ったり材料を組み合わせたり、表現の仕方をいろいろ試しながら表し方を工夫している。	作品に対する気持ちを話したり聞いたりしながら、作品のよさや面白さなど表現の工夫を見つけている。

5 指導計画 (6時間扱い 本時3/6)

時間	子供の活動	教師の支援・指導
1	○液体粘土の使い方や表現方法を知り、布を固めて遊ぶ。	・教師の演示をもとに、布に液体粘土を浸す手順や注意点などを知り、活動のイメージをもてるようにする。
2	○おすすめの世界と聞いてイメージできることを発表し、イメージマップを作る。 ○液体粘土で固めたい形を考えて、コンセプトアートを描く。	・子供と話し合っイメージマップを作ったりいろいろな世界の風景写真を見せたりして、イメージが広げられるようにする。
3 (本時)	○布を液体粘土で固める。	・班に一つ布を浸すための容器を用意し、ダイナミックに活動できるようにする。 ・布を吊るすための場所を確保し、使ってもよいことを知らせる。
4	○固まった形に色や飾りをつけて、形をつくりかえる。	・絵の具で着色してもよいことを知らせる。 ・いろいろな身近材を用意してだれでも使えるようにする。
5	○紙粘土でその世界にいる自分をつくる。	・戸惑っている子供には、どんなことをイメージしているのか聞いたり質問したりして、イメージがより広がっていくような声掛けをする。 ・友達の作品を見る時間を作り、いろいろな表現方法に気付けるようにする。
6	○友達と作品を見合いながら、互いのよさや面白さを感じ、伝え合う。	・材料の組み合わせなど友達の作品のよいところを付箋紙に書き、交換できるようにする。

6 研究の視点

視点1 イメージを膨らませるための工夫

○おすすめの場所を紹介する

子供たちが自分のイメージを楽しみながら形にしていけるように、「旅行会社の社員になっておすすめの場所を紹介する」という場面を設定して学習を展開する。「おすすめの場所」という言葉から連想してイメージマップを作り、山や川などの自然の風景や城などの人工物などいろいろな場所を考えると、作りたいものがなかなか思いつけない子供も友達の意見を聞くことができ、安心して取り組むことができるだろう。「おかしな城」や「恐竜の住む森」など、架空の場所を作ってもよいことを話したり、世界中の珍しい風景の写真を見せたりすることで、より想像を深めていけるようにする。

○コンセプトアートを描く

作りたいものが決まったら描いたイメージを自分でコンセプトアートとして絵に描く。作品全体の雰囲気や色合いなどを詳しく視覚化することで、後に立体として製作するときイメージがよりつかみやすくなると考える。前時までに実際に液体粘土で布を固めることを体験しておくことでイメージが広がり、現実的に製作が可能な形を考えながら描くことができるだろう。描くときは自分が作った液体粘土の作品や参考になりそうな写真を見たり、実際に持ってきた布や材料を組み合わせたり吊るしたりしてみて、頭の中のイメージと実際の形を結び付けていけるようにしたい。

また、描いたコンセプトアートは製作の間すぐに見られるところに掲示しておいて、自分の描いたイメージを常に思い出せるようにしたい。

視点2 自分のイメージを表現するための工夫

○試しの時間を持ち、表現を広げる

学習のはじめに、試しの時間として実際に液体粘土を使って布を固める時間を作る。液体粘土の感触の楽しさや様々な使い方ができる驚きを味わい、後の活動への期待や関心を高めていきたい。

また、液体粘土は今まで扱ってきた粘土と異なり布にしみ込ませるという新しい使い方をするので、布のたわむ様子や固まる様子を体験することで、作りたい形を作るときにどのようにしたらいいかがイメージしやすくなるだろう。コンセプトアートを描くときにも試しの時間で作った作品からイメージが広がったり、現実的に近い形を考える助けにしたりするなど、自分の作りたいものをより詳しく描きやすくなると考える。

○掲示物を活用し、表現方法を知る

子供たちは液体粘土を扱うのは本単元が初めてとなり、どのようにして布を固めていくのかうまくイメージできないことが考えられる。そこで、液体粘土の特徴や表現方法を分かりやすく見せるため、実際に布を固めたものや固める方法を実物や写真に表して掲示しておく。ただ固めるだけでなく吊るしたり詰め物をしたりして布の形を変えるとといった表現方法が分かりやすくなり、製作のヒントになるだろうと考える。

また、液体粘土と身边材を組み合わせる活動では、材料に合った接着のしかたを知ることが必要になる。ボンドの使い方を掲示物にしていつでも見ることができるようにすることで、子供たちはスムーズに制作を進めることができるだろう。

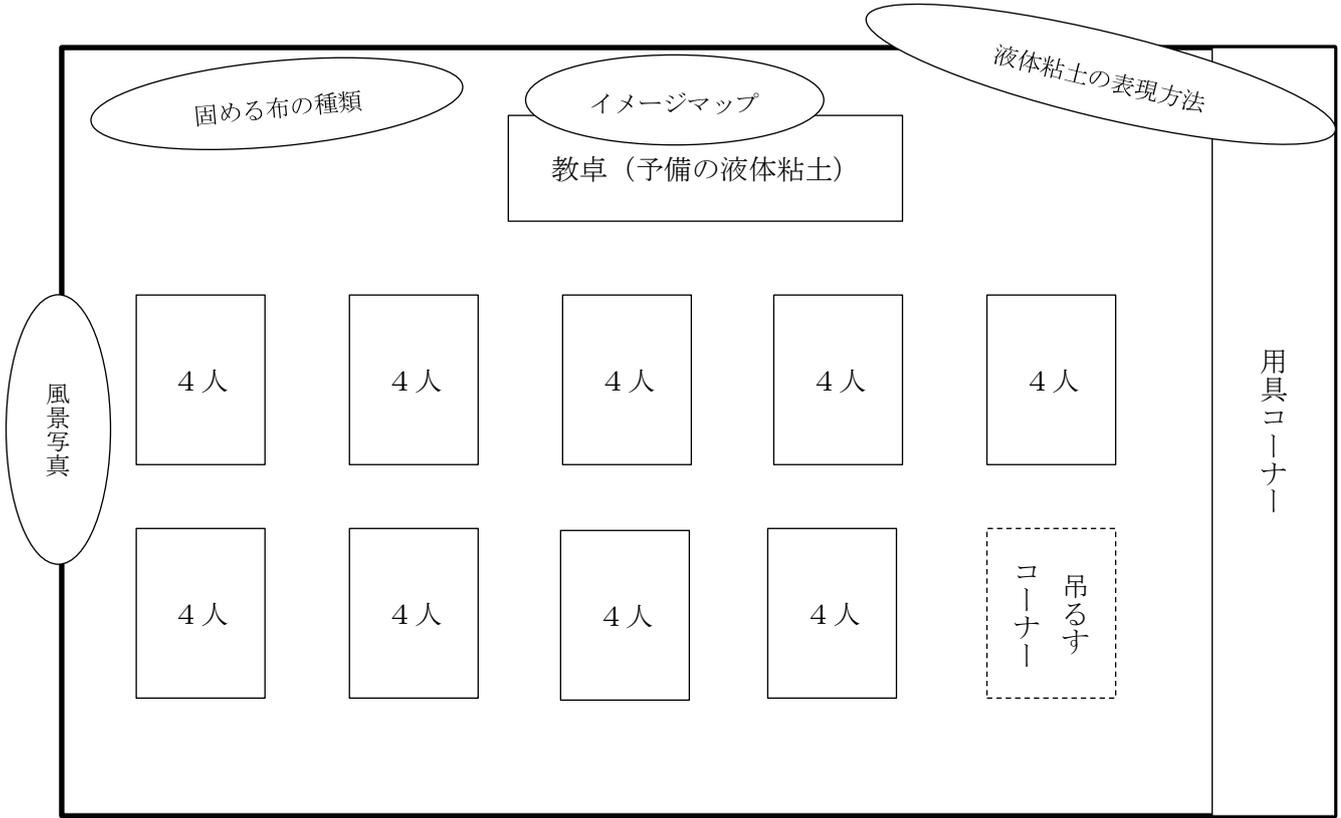
7 本時の目標

(1) 目標

○色を塗ったり材料を組み合わせたり、表現の仕方をいろいろ試しながら表し方を工夫することができる。 (創造的な技能)

(2) 展開 (3/6)

学習活動と内容	教師の支援 (○) と評価の観点 (◆)	材料・資料
1 前時の内容を振り返り、本時のめあてを確認する。	○自分で集めた材料や教室にある材料を使い、おすすめの場所をつくることを話す。	
液体粘土で布を固めて、おすすめの場所をつくろう。		
2 液体粘土や芯材を使って、おすすめの場所をつくる。 〔予想される児童の活動〕	○前時までに作ったイメージマップやコンセプトアートを見て想像を広げ、自分の世界を自由に表現していくことを伝える。 ○班に一つ大きな容器を用意して、その中に液体粘土を入れ、共同で使えるようにする。 ○液体粘土に絵の具を混ぜて色を付けてよいことを伝える。色を付けたい場合は別の容器に液体粘土を取って使うようにする。 ○用具コーナーに芯材や容器を置いて、誰でも自由に使えるようにする。 ○戸惑っている子供には、どんなことをイメージしているのか聞いて称賛したり質問したりして、イメージがより広がっていくような声掛けをする。 ◆色を塗ったり材料を組み合わせたり、表現の仕方をいろいろ試しながら表し方を工夫している。(創造的な技能)	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">子供</div> 道具袋、絵の具、試しの時間で作った作品、コンセプトアート <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教室</div> ペットボトル、風船、ハンガー、端材、針金等の芯材 お椀・バット等の容器 掲示物、新聞紙、バケツ
3 友達と作品を見合い、良さを見つける	○友達と作った作品を見比べて、お互いのよさを認め合えるように話す。 ○工夫した組み合わせ方ができている子を紹介して称賛し、次時への意欲付けを図る。	
4 次時の活動への見通しをもつ。	○鑑賞して見つけた友達の良いところを作品に取り入れて良いことを話す。	



固める布の種類

イメージマップ

液体粘土の表現方法

教卓 (予備の液体粘土)

風景写真

4人

4人

4人

4人

4人

4人

4人

4人

4人

吊るす
コーナー

用具コーナー